

令和6（2024）年度
第3回 栃木県立日光明峰高等学校 学校運営協議会

日 時 令和7年2月4日（火）
9時30分～11時00分
場 所 栃木県立日光明峰高等学校
図書室（南校舎2階）

次 第

1 開会 【進行：事務局】

2 会長挨拶

昨年度は非常に天候が悪く日光学の発表は午前中のみとなったが、本日は天候もよく、大変楽しみである。また来年度に向けての議論も落ち着いてできるのではと思う。先日宇都宮大学でも大学入学共通テストがあり、今年から新課程ということで、新しい学習指導要領の下学んだ生徒たちが受けることとなった。そうした中、すでに昨年12月から次の学習指導要領をどうするのかということが国の方で審議が始まっている。実際の改定はまだ先だが審議のポイントの一つとして小中高大の連携をさらに進めていくという点で「タテのつながり」があげられる。なぜこのような勉強をしているのかと考える生徒が多い中で大切なことである。特に高校だと普通科から様々な進路選択をしていく生徒たちの学習状況が一つの論点になっている。もう一つは「多様性」。不登校児童生徒が増えたり、インクルーシブ教育を含めて様々な生徒の対応が必要である。高校でいえば全日制・定時制・通信制など多様な学びの形態がある。そこに基礎として学習指導要領は何を勉強するのかとして整理が必要である。また生成AIをはじめとした技術の発展に伴って、その中で人間らしさをどのように追及していくのか。新聞の記事で読んだが、生成AIに大学入学共通テストを解かせると非常に高得点を取る。そうすると人間は何のために勉強するのかということが問われるのかと思う。

さらに教員の働き方改革についても何でもかんでもやるのではなく、持続可能な学校をどのように作っていくのかも論点である。

日光明峰高校では「タテのつながり」といえばこの後の発表にもある日光学の地域連携における学校から社会へのつながりがある。「多様性」という意味でも日光明峰高校ならではの取り組みがある。そういった次の学習指導要領の論点になっていることを日光明峰高校は先んじてやっていると報告を見て思う。ただ閉校も見えているので、そのようなことも考えながら、今後の入学生まで責任をもって教育をしていく。そのために運営協議会ができることを考えていくことが大切である。

3 校長挨拶

今年度も残すところあと2か月、これまでの行事もおおむね予定通り実施できた。大きな行事といえば本日の日光学の発表と卒業式を残すのみとなった。また日光学をはじめとした地域と連携した学習活動も充実し、生徒にとって多くの学びとなった。前回の協議会で委員からあった中宮祠の拝殿の修理の見学も実現し、参加した生徒からも好評であったと聞いている。進路関係はおかげさまで3学年全員就職進学共に決定した。部活動関係ではスピードスケート・アイスホッケー共にインターハイ・国民スポーツ大会に出場し、力を発揮してきた。また科学部は今年度岐阜県の全国総文祭に出場したが、今年度の県の研究発表会でも優秀賞を獲得して、次年度の香川県で行われる総合文化祭に3年連続で出場が決まった。こうした生徒が充実した活動が行えるのも学校運営協議会の皆様のご支援があつてのことだと思ふ。新校設立関係では昨年の10月に第2回の準備委員会が開かれ、スクール・ミッション・校名・制服・校歌・校章などの制作スケジュールの確認がされた。新校関係も進めているが、明峰高もあと2回新入生を受け入れる。これから入学してくる生徒の為にも現在の生徒と同じように充実した学校生活を送らせたいと考えている。そのためにも皆様のお力を引き続きお貸しいただければありがたい。本日は今年度の最終回となるが、今年度の総括と次年度に向けた意見をいただけたらと思っている。この会のあとには日光学の発表会もあるのでご都合のつく方は参加していただけるとありがたい。

4 報告

(1) 冬季インターハイ及び国スポの結果について (資料1)

基本的に資料の通り

資料の訂正 アイスホッケーの国民スポーツ大会結果は

1回戦 5対6 東京都 に訂正

両部共に今持っている力を存分に発揮した結果である。

(2) 進路状況について (資料2)

在籍生徒数 45名 進学希望 26名 就職希望 19名

内訳は資料の通り

進学希望者は58% (昨年度59% ここ数年6割前後)

すべての生徒が希望した進学先に合格

就職希望者の内定先に小西美術工芸社 (日光市所野) を追加

求人数は非常に恵まれた状況であり、生徒もしっかりと対策を行った。

19名すべての生徒が第一希望に内定をいただくことができた。

(3) 日光学・地域連携活動報告

スライドにて報告

(4) 特色選抜入試について (資料3)

資料の通り

5 協議

(1) 令和6年度学校評価について (資料4)

【事務局】学校評価は学校教育目標や重点目標に基づき、学校が何に力をいれて学校運営に取り組むのかを示し、その達成状況を検証して次年度に向け改善を進める指標である。

[委員]特色選抜志望理由としてウインタースポーツ・学び直し・日光学の3点が大きく上げられる。日光学が今後どうなっていくのか。またアンケートの結果も良好であるので学び直しはどのような取り組みをしているのか知りたい。

→日光学の今後の予算については、三菱みらい育成財団の助成金を新たなプログラムとして申請予定(継続はできない)。何とかして次年度以降も助成していただけたらと思う。助成金の大半は交通費である。本校にはスクールバスがあるという強みもあるので、うまく活用することでやりくりをする必要も考えられる。

→学び直しについて、本校の学力の差は非常に大きいので習熟度別だけでなくティームティーチング等もうまく活用している。学校設定科目として「ベーシック科目(数学・英語)」があり、中学校3年間の振り返りや将来に向けた基礎学力を身につけさせている。

[委員]今後閉校を見据え、どのように学校経営・運営をしていくのか。

→あと2年間は3学年揃うので、現在と同様な活動をしていきたい。その後は学年が減ると教員数や予算の減も考えられるのでそこをどうしていくかは今後検討していかねばならない。

[会長]アンケートの結果について低い数値がでたところは何か分析があるか。あるいは生徒と保護者の差について何かあるか。

→数値の低い部分については自由記述欄の意見も参考にし、再度分析を進めていかねばならないと感じている。生徒と保護者との差異については、学校から保護者や地域へより情報の発信(ICT機器の活用や、HP、一斉送信メール等)を工夫していかねばならないと感じている。

[委員]生徒と保護者の差異については、子供にとっては必要な指導は子供からすると嫌われる傾向であるが、保護者にとって必要な指導をしてくれたという良い評価の表れではないかと感じる。

[会長]先生方のアンケートで授業改善の数値が低いが、自由記述等を見てもある意味で積極的なものかと感じる。先生方の研修について次年度にむけてなにか計画等はあるか。また日光学の予算で県教委から予算の情報提供等はあるか。
→授業改善について、評価の方法等含め今後も議論していかなければならない。次年度の研修の日程は決まっていないが、校内での授業公開や授業研究を負担のかからない範囲でやっていきたい。予算については様々な情報をアンテナを高くして、手をあげられそうなものについてはあげていきたい。

(2) 令和7年度学校経営方針(案)

「スクール・ミッション」、「スクール・ポリシー」を追加。
重点施策に「(4)豊かな人間性をはぐくむ教育の推進」を追加。

[委員]重点施策のなかで、以前学校の魅力化で、ゴルフ部とeスポーツ部を新設したが現在生徒はどのくらい取り組んでいるのか。また日光市の協力はどうか。

→eスポーツをやりたいと本校に入学している生徒もおり、現在部員は20名程度。ゴルフ部は2年生の女子が頑張っている。

日光市との連携についてもアイスホッケー部の支援が継続しており、今年度も3名指定選手に選ばれバックスの練習に参加させていただいている。日光学においても、講師としてお世話になったり、協力していただいたりしている。

[会長]重点施策に(4)を追加した意義を考えると。少人数ならではのこそ自分を大切に、周りを大切にするということを学べる機会かと思う。ぜひ道徳教育・人権教育を推進してほしい。

6 事務連絡

(1) 「活動状況報告書」の提出について

7 閉会